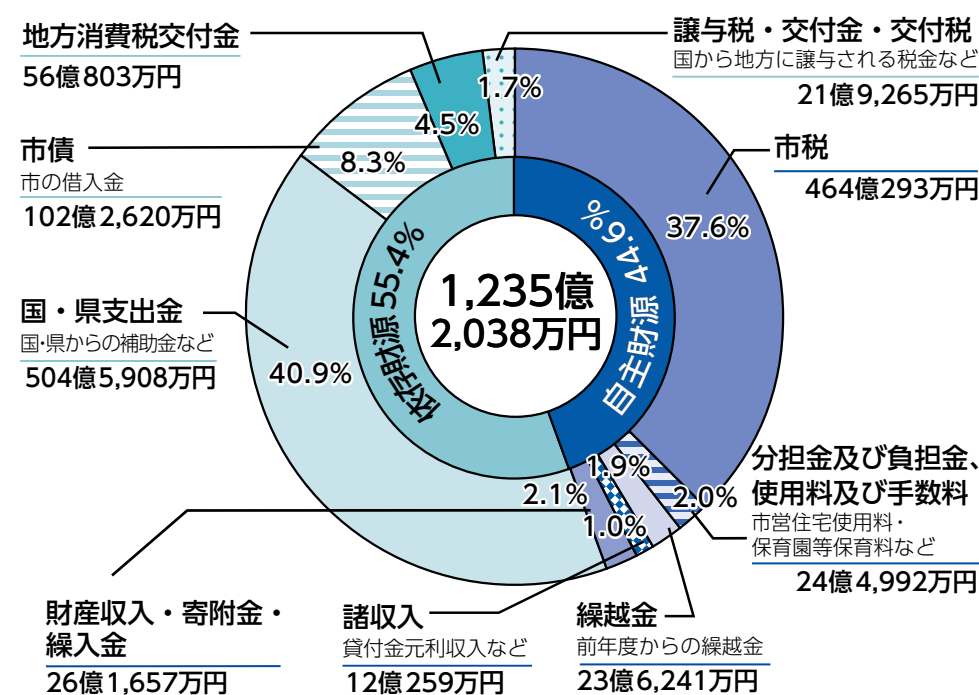


令和2年度 決算報告

皆さんの納めた税金が、この1年間でどのように使われたのかを確かめてみましょう。

問合せ／財政課 ☎55-2725 📠51-1479



歳入 年度内に入ってきたお金

一般会計決算

特別定額給付金や子育て世帯への臨時特別給付金などの新型コロナウイルス感染症対策事業により、歳入歳出とも過去最大規模の決算となりました。

令和2年度決算 ここがポイント

歳入の約4割は市税

歳入の約40パーセントは、市民・企業の皆さんに納めていただいた市税です。令和2年度の市税の決算額は、約464億円で、前年度と比較して約12億円の減収となりました。

これは、法人税や固定資産税において、新型コロナウイルス感染症の影響による徴収猶予特例制度の適用を受けた猶予額が生じたことなどが主な要因として挙げられます。

市税の内訳

区分	決算額
市税	464億293万円
個人市民税	152億9,249万円
法人市民税	24億2,183万円
固定資産税	224億9,654万円
軽自動車税	7億6,883万円
市たばこ税	18億623万円
都市計画税	36億1,701万円

歳入 527億3,884万円

歳出 522億1,113万円

特別会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	241億7,054万円	240億5,412万円
後期高齢者医療事業	54億7,183万円	54億6,160万円
介護保険事業	197億4,352万円	197億3,338万円
新富士駅南地区土地区画整理事業	13億3,920万円	13億3,711万円
第二東名IC周辺地区土地区画整理事業	14億5,977万円	11億763万円
富士山フロント工業団地第2期整備事業	4億1,550万円	4億1,550万円

富士市には13の特別会計(令和2年度)がありますが、表中では駐車場事業特別会計、森林財産特別会計、財産区特別会計(5会計)を省略しています。

特別会計決算

特別会計とは

特定の事業を行うため、一般会計と区分けして設けた会計です。事業収益や一般会計からの繰入金などが主な財源で、行政と一体の経営、運営を行っています。

新型コロナウイルス感染症対策事業

項目	事業数	事業費
①ワクチン接種	1件	2,362万円
②生活支援	15件	262億7,632万円
③経済対策	19件	20億 93万円
④感染拡大防止対策	24件	2億2,729万円
⑤その他	27件	10億2,235万円
合計	86件	295億5,051万円

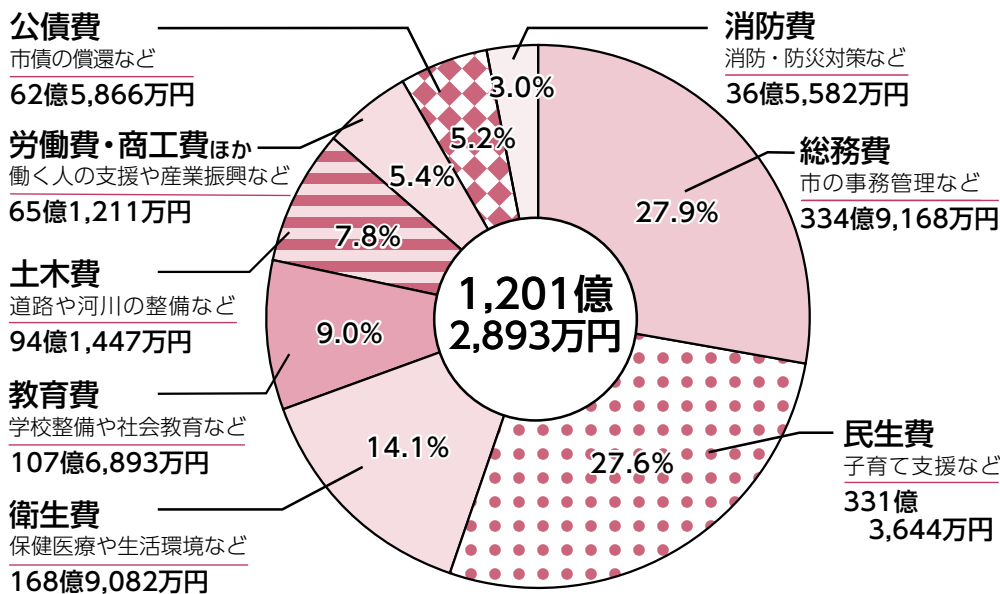
歳出は、目的別に見ると、総務費が大幅に増加し27・9パーセントを占めています。これは、国からの補助を受け、特別定額給付金の給付を行ったことによります。また、福祉関係の費用である民生費が27・6パーセントとなっています。

今後も、子ども子育て関連経費や高齢化の進行に伴う社会保障費、医療関係費が、高水準で推移することが見込まれます。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、86件、295・5億円を支出しました。

歳出は総務費が最多

歳出
年度内に使ったお金



決算報告の資料は市ウェブサイトに掲載しています。詳しくは「しずく」に▼



悪化
747億円→790億円

■一般会計の市債残高
自治体の借金の残高
令和2年度の市債残高は790億円となり、過去最高額となりました。
これは、新環境クリーンセンター建設事業に伴う新規借入によるものです。

悪化
60.1%→63.3%

■将来負担比率
自治体が将来支払う可能性がある負債の財政規模に対する比率
市債残高の増加により悪化していますが、早期健全化基準(350パーセント以上)を大きく下回っており、健全な財政状況となっています。

悪化
84.0%→89.8%

■経常収支比率
市税など毎年度収入される財源のうち、義務的な経費など、毎年度支出される経費に充てた割合
これまで臨時的経費としていた市の臨時職員の賃金等が会計年度任用職員制度の開始に伴い、経常的経費である人件費に分類され、経常的経費が増加し、悪化しています。

富士市の財政状況

病院事業

事業収益合計
157億1,539万円
事業費用合計
149億7,885万円
純利益
7億3,654万円

公共下水道事業

事業収益合計
61億7,180万円
事業費用合計
50億8,721万円
純利益
10億8,459万円

水道事業

事業収益合計
39億2,776万円
事業費用合計
31億2,743万円
純利益
8億 33万円

企業会計とは
法令に基づき、独立採算を原則に企業の経営で運営される会計です。

企業会計決算

